

# 中央地域包括支援センター 長橋 成光

**功 績** 孤独死・孤立死を迎えようとしていた癌末期の困難事例の地域住民を、警察と連携しグループ病院へ繋げ、健育会グループの強みを生かした地域包括ケアを実践し孤独死・孤立死を回避させた功績。

**推 薦 者** 中央地域包括支援センター 所長 伊藤 清彦

**推 薦 理 由** どのような困難事例であっても、その方の尊厳を大事にしながら、孤独死・孤立死をさせてはいけないという使命感で、途切れていた医療機関やグループ病院へ繋げ、ご本人・親族へ根強く説得、最後はご本人が納得する形で最後を看取ることが出来、孤独死・孤立死を未然に防いだケースです。困難事例であっても、健育会グループの強みを生かした地域包括ケアを実践できた症例は理事長賞に値すると考え、長橋を理事長賞候補として推薦します。

## 内 容

---

長橋は平成8年に健育会に入職し、病院、居宅介護支援の経験を経て地域包括支援事業所で勤務しております。東日本大震災から石巻地区の健育会グループの迅速な対応を目の当たりにし、その経験を教訓に数多くの事例を担当してきました。今回、癌末期のごみ屋敷の独居住民を迅速な対応で医療機関へ導き孤独死を回避、最終的にはグループ病院で親戚が看取ることに繋げたケースとなります。

8月中旬に市民相談センターから「相談住民の親戚の家がごみ屋敷になっているようだ、包括で関わってませんか?」との問い合わせがありました。包括では関わりはなく、詳細状況から早急に安否確認が必要なケースと判断し、長橋は迅速に警察へ連絡、警察官と同行のもと安否確認を行いました。家屋はごみで溢れ返っており、衰弱した状態のご本人を発見。話を傾聴し「胃がん・肺がんで転移している。お金がないので通院していない」とのこと。健康状態から必要な支援を判断し即座に看護師と介入、バイタルチェックをはじめとした健康観察から支援にあたることとなりました。ご本人から救急搬送は絶対に嫌だと拒否があった為、とにかく毎日訪問し、少しずつ関係性を構築していきました。

日に日に体調の悪化が著明となり、ご本人の拒否覚悟でS病院へ外来受診の手配をし訪問するも、茶の間で動けなくなっているところを発見。救急搬送の拒否もありましたが、根気強く説得した結果、ご本人と親戚含め外来受診の説得に成功しました。親戚と協力しご本人の体をバスタオルで抱え車に乗せ受診へ、ご本人・親戚への円滑な介入からすぐに入院となりました。

最終的には中央地域包括支援センターが関わったことで、石巻健育会病院へ転院し、最後は苦痛なく穏やかに親戚に看取られております。

迅速な介入や根強い説得が無ければ必ず孤独死になっていたケースではありましたが、健育会で培った迅速な介入や経験を生かしご本人・親戚を動かしたソーシャルワークはまさに健育会の強みを生かした地域包括ケアを実践することが出来たケースであります。